

# きこみ



**2024**  
No. **61** 岡山県小学校長会

表紙写真 「津山洋学資料館」

津山洋学資料館は、旧出雲往来に沿い、国重要伝統的建造物群保存地区にも選定されている、城東地区に位置します。昭和53年開館、平成22年現在の地に移転。洋学に関する資料の収集や保存を行い、特別展や講演会などを通じて洋学知識の普及に努めている。津山市を中心とする美作地方（岡山県北東部）は、江戸時代後期から明治初期にかけて、宇田川家や箕作家をはじめとした日本の近代化に貢献した優秀な洋学者を輩出しています。

写真提供 津山市

# 目 次

はじめに	岡山県小学校長会 会長 小川 泰永	2
ご挨拶	岡山県教育委員会 教育長 中村 正芳	3
第1章 令和6年度 岡山県小学校長会総会・研修会の概要		
令和6年度 岡山県小学校長会総会・研修会の概要		7
令和6年度 岡山県小学校長会活動方針		11
令和6年度 岡山県小学校長会役員写真		12
令和6年度 岡山県小学校長会研修会		13
講演「人生100年時代 ～昭和に置き忘れて来たもの?～」		
元山陽放送アナウンサー		
倉敷芸術科学大学 客員教授		
濱家 輝雄 氏		
第2章 令和6年度 岡山県小学校長教育研究大会津山大会 概要報告		
大会日程		19
開会挨拶		20
大会概要及び開会式・講演（写真）		22
記念講演「身近な建築から知る郷土の魅力」		24
作家・写真家・建築家 稲葉なおと 氏		
大会主題、研究の全体構想		27
分科会担当者一覧		29
分科会記録		30
津山大会に参加して		50
第3章 令和6年度 研究大会参加報告		
全連小徳島大会概要・提案発表		55
全連小徳島大会に参加して		57
指定都市小学校長研究協議会岡山大会・提案発表		59
中国地区山口大会概要・提案発表		63
中国地区山口大会に参加して		71
第4章 岡山県小学校長会の歩み		
(1) 令和6年度 事業報告		75
(2) 令和6年度 各委員会等の活動報告		80
(3) 会員の動静		89
(4) 支部のあゆみ		90
資料編		
(1) 岡山県公立小学校一覧		115
(2) 令和6年度 岡山県小学校長会役員一覧		120
(3) 岡山県小学校長会歴代会長及び副会長等一覧表		121
おわりに		122

## はじめに



岡山県小学校長会 会長 小川 泰 永

岡山県小学校長会の会誌である「きび路」は、遡ること昭和39年に第1号が創刊され、毎年、歩みを止めることなく歴史を綴ってまいりました。この度、第61号の発刊を迎える運びとなり、発刊に当たっては、お忙しい中、多くの方々に寄稿・編集に携わっていただき、心から感謝申し上げます。

令和2年の初頭から約3年に渡って猛威を振るった新型コロナウイルス感染症への対応が、今では遠い昔のここのように思えます。

さて、いつの時代も、山積する教育課題が教育現場には突き付けられます。全国的には、中央教育審議会特別部会の「審議のまとめ」が出され、「学校における働き方改革の更なる加速化」「学校の指導・運営体制の充実」「教師の処遇改善」等が議論されることとなり、給特法の改正等が注視され、教育界の大きな節目の年となることが期待されています。県内に目を向けると、講師不足を含んだ教職員の人材確保、若手教員の育成等の教員の資質能力の向上、不登校児童数増加等の生徒指導上の諸問題への対応、一向に進まない働き方改革や、一人一台端末の持ち帰り等を含むG I G Aスクールの推進等がこれまでも県小学校長会では話題にあがっていました。

今年度、そういった教育課題を解決するために、県内の校長先生方としっかり「対話」し、その困り感について、互いに「共感」し、一緒に悩み、一緒に考え、次の世代を担うこれからの校長先生方のために、少しでも改善された県小学校長会にしていけたらと思ひ、キャッチフレーズを「対話と共感」と設定し、取り組んでまいりました。そして、この一年間の県小学校長会の取組を集約したものが、会誌「きび路」となります。

「Society5.0」を生き抜く児童を育てようとする我々校長が、学校内外で「あれはできない。これはできない。」と言うわけにはまいりません。いつの時代も、校長としての学校経営力向上は不可欠であり、校長自身が学び続ける人材であり続けなければなりません。令和6年度山口県での中国地区小学校長会教育研究大会山口大会では3名の校長が、津山市での県大会では10名の校長が提案発表を行い、分科会協議を通じて、学校経営を生かす知見を学び合うことができ、大いなる成果があったことを実感しています。そして、令和7年度は、中国大会が倉敷市で開催される予定となっており、倉敷支部の校長先生方がよりよい校長研修の場となるよう準備を着々と進め、我々校長会も学び続ける集団としての姿勢を大切にしているところです。

まだまだ「道半ば」ですが、校長先生方お一人お一人の力の集まりが、未来の岡山の学校を創造する「礎（いしずえ）」となることを期待しています。

終わりになりますが、お力添えいただいている校長先生方に改めて感謝申し上げますとともに、平素から本会に温かいご指導、ご支援を賜っております岡山県教育委員会をはじめ多くの関係の皆様にご心よりお礼を申し上げ、はじめの言葉といたします。

## ご挨拶



岡山県教育委員会 教育長 中村正芳

岡山県小学校長会誌「きび路」第61号の発刊を、心からお喜び申し上げます。

校長先生方におかれましては、日頃から学校経営の責任者として、子どもたちの学ぶ力の育成、豊かな心の育成、基本的な生活習慣の確立などを目指し、本県の小学校教育の充実と発展のためにご尽力をいただいておりますことに、深く敬意と感謝を申し上げます。

さて、ご承知のとおり、わが国の人口減少は「深刻」な状況にあります。国が令和6年6月に公表した2023年の人口動態統計では、日本の人口は前年から84万8659人減と過去最大の減少を記録しました。今後も毎年80～90万人減少し、2040年代には毎年100万人程が減少すると予想されております。こうした中であって、我が国や郷土岡山の将来、我々の未来を考えると、それを託すべき、子どもたちへの教育は極めて重要であります。

誰一人取り残されてはいけない、すべての子どもたちが、自分の価値を尊重し、その能力を最大限に伸ばし、主体的に社会の形成に関わり、発展させていく存在になっていかなければなりません。そして、そのために必要な力、資質能力も、社会が変わる中、変わってきております。先を見通すことが難しい時代であって、自分の頭で考え、自分の言葉で語り、自分の意志で行動できる人材の育成が求められています。

しかしながら、これまでの「日本型学校教育」では、「みんなで同じことを、同じようにする、同じようにできる」ことを、過度に要求する面があったため、そのことが、不登校をはじめとする新たな教育課題を生み出してきた面があることは否めません。

そこで、こうした課題に正面から向き合うため、県教育委員会では「学校を誰もが通いたくなる魅力ある場所に作る」という目標を今年度新たに掲げました。簡単な目標ではありませんが、学校教育に携わる者は皆、真に追い求めなければならない目標であります。

これは単に不登校対策にとどまらず、子どもが真ん中の学校づくりを進める中で、学ぶ力の育成や、生徒指導の在り方の見直し、働き方改革などを一体的に推進することを目指すものであります。

あわせて、学校外にも様々な学びの場を整えることで、「誰一人取り残されない岡山県の教育」の実現を目指してまいります。

教育の成果は、子どもの成長であり、そのために子どもたちと日々直接向き合っておられる校長先生方や教職員、学校の取組がしっかりアップデートされていくことが大切であります。

県教育委員会では、今求められている、こうした教育改革の目的を丁寧の説明し、現場理解と伴走により、学校現場が主体性を持って一歩前に進めるよう、一緒になって取り組んでまいりたいと考えています。

引き続き、現場主義を徹底し、校長先生方としっかり議論しながら、小学校教育の充実を支援してまいりたいと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。